

看護学科 1年 後期 専門基礎科目／専門科目

1. 病態生理学
2. 成人・高齢者疾病治療管理論 I
3. 成人・高齢者疾病治療管理論 II
4. 薬剤治療管理論
5. 健康と法律
6. 看護技術論 II
7. 回復促進援助技術論
8. 臨床看護概論
9. 臨床推論
10. 精神看護学概論
11. 成人看護学概論
12. 高齢者看護学概論
13. 小児看護学概論
14. 母性看護学概論
15. 地域・在宅看護学援助論
16. 基礎看護学実習 I

看護学科

科目名： 病態生理学				担当教員 氏名： 甲野 裕之		
単位	開講時期（年次・期）		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門基礎科目	演習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：						
授業科目の学修教育目標の概要：					キーワード	
根拠に基づいた的確な看護をするために、病気の原因や経過などの病気の成り立ちを、先天異常、物質代謝障害、炎症、免疫の異常、腫瘍などの病変カテゴリーに分類して学ぶ。					病気の成り立ち、先天異常、物質代謝障害、炎症、免疫異常、腫瘍	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力			看護に活用される理論、技術を身につけるために、病気の成り立ちを理解する			
B 専門的技術			専門的看護技術を修得するために、病気の成り立ちを理解する			
C 論理的思考力			病気の成り立ちを理解し、看護の理論や技術を論理的に説明できる能力を養う			
F チームワーク・リーダーシップ			医療チームの一員であることを認識し、看護師の役割を理解する			
G 倫理観			病気を理解することにより、病める人の心を理解し、医療に携わる者としての倫理観を身につける			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 90 %		レポート： %		発表： %	実技試験： %	その他： 10 %
特記事項：その他の10%は授業の受講態度、小テストの結果による。						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：適宜小テストを行い、テスト問題の解説を行う。						
授 業 計 画				準備学修（予習・復習等）		
				学修内容	学修に必要な時間（分）	
①病理学の領域、細胞・組織				【予習】教科書（病理学の領域、細胞・組織）を読む。【復習】病理学の領域、細胞・組織の復習		【予習】60分【復習】60分
②細胞・組織の障害、再生と修復、炎症（概念、関与する細胞・因子）				【予習】教科書（細胞・組織の障害、再生と修復、炎症）を読む。【復習】細胞・組織の障害、再生と修復、炎症の復習		【予習】60分【復習】60分
③炎症（急性炎症、慢性炎症）				【予習】教科書（炎症）を読む。【復習】炎症の復習		【予習】60分

		分【復 習】60 分
④免疫とアレルギー（1）（免疫系の仕組みと働き）	【予習】教科書（免疫とアレルギー）を読む。 【復習】免疫とアレルギーの復習	【予 習】60 分【復 習】60 分
⑤免疫とアレルギー（2）（免疫が関与する疾患）	【予習】教科書（免疫とアレルギー）を読む。 【復習】免疫とアレルギーの復習	【予 習】60 分【復 習】60 分
⑥感染症	【予習】教科書（感染症）を読む。 【復習】感染症の復習	【予 習】60 分【復 習】60 分
⑦循環障害（1）（充血、うっ血、出血、血栓症、塞栓症、梗塞）	【予習】教科書（循環障害）を読む。 【復習】循環障害の復習	【予 習】60 分【復 習】60 分
⑧循環障害（2）（浮腫、ショック、高血圧）	【予習】教科書（循環障害）を読む。 【復習】循環障害の復習	【予 習】60 分【復 習】60 分
⑨代謝異常（1）（糖質代謝異常、脂質代謝異常）	【予習】教科書（代謝異常）を読む。 【復習】代謝異常の復習	【予 習】60 分【復 習】60 分
⑩代謝異常（2）（たんぱく質代謝異常、核酸代謝異常）	【予習】教科書（代謝異常）を読む。 【復習】代謝異常の復習	【予 習】60 分【復 習】60 分
⑪老化と老年病、新生児の病理	【予習】教科書（老化と老年病、新生児の病 理）を読む。【復習】老化と老年病、新生児の 病理の復習	【予 習】60 分【復 習】60 分
⑫先天異常	【予習】教科書（先天異常）を読む。 【復習】先天異常の復習	【予 習】60 分【復 習】60 分
⑬腫瘍（1）（腫瘍の分類、悪性腫瘍と良性腫瘍）	【予習】教科書（腫瘍）を読む。 【復習】腫瘍の復習	【予 習】60 分【復 習】60 分
⑭腫瘍（2）（腫瘍の原因と発生メカニズム）、生命の危機	【予習】教科書（腫瘍、生命の危機）を読む。 【復習】腫瘍、生命の危機の復習	【予 習】60 分【復 習】60 分
⑮まとめ	【予習】病理学全体の復習をする。	【予習】 120分
使用テキスト：使用テキスト：カラーで学べる病理学（ヌーバルヒ ロカワ）、渡辺照男著、ISBN978-4-86174-062-6	その他参考文献など：図書館の病理学関連図書	
受講上の留意点（担当者からのメッセージ）：準備学習（予習・復習等）をしっかりと行ってください。		

看護学科

科目名： 成人・高齢者疾病治療管理論 I			担当教員 氏名：		下条 竜一 垣内 大毅 梅原 康次 吉江和佳 脇博樹
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門基礎科目	講義	必修
実務経験を用いてどのような授業を行っているか： 医師の実務経験を活かして、疾病と治療の現状について教授する。					
授業科目の学修教育目標の概要：					キーワード
成人・高齢者の疾病について、主として外科的治療の対象となる運動器疾患・消化器疾患・スキンケア・女性生殖器・麻酔と術前・術後管理について基礎から臨床に到る考え方を学び、臨床における運動器疾患・消化器疾患・スキンケア・女性生殖器・麻酔と術前・術後管理の取り組み方を学ぶ					外科系疾患、外科的治療
授業における学修の到達目標					
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)					
A 知識・理解力	外科的治療の対象となる皮膚科学・運動器疾患・消化器疾患・女性生殖器・麻酔と術前・術後管理を習得することができる				
C 論理的思考力	皮膚科学・運動器疾患・消化器疾患・女性生殖器・麻酔と術前・術後管理の基礎と臨床両面から分析し表現できる				
D 問題解決力	皮膚科学・運動器疾患・消化器疾患・女性生殖器・麻酔と術前・術後管理を収集・分析・整理して問題を解決できる				
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： 90 %	レポート： %	発表： %	実技試験： %	その他： 10 %	
特記事項：「その他」の20%は授業での参加姿勢や努力を評価する。					
アクティブラーニング要素： 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：					
授 業 計 画			準備学修(予習・復習等)		
			学修内容	学修に必要な時間(分)	
①【下条】運動器の疾病と治療 (1)			(予習)テキストの該当箇所を読む (復習)復習	【予習】60分 【復習】100分	
②【下条】運動器の疾病と治療 (2)			(予習)テキストの該当箇所を読む (復習)復習	【予習】60分 【復習】120分	
③【垣内】消化器疾患の疾病と治療 (1)			(予習)テキストの該当箇所を読む (復習)復習	【予習】60分 【復習】120分	
④【垣内】消化器疾患の疾病と治療 (2)			(予習)テキストの該当箇所を読む (復習)復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑤【梅原】外科総論			(予習)テキストの該当箇所を読む (復習)復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑥【梅原】褥瘡の病態生理と治療			(予習)テキストの該当箇所を読む (復習)復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑦【吉江】麻酔と術前・術後管理			(予習)テキストの該当箇所を読む (復習)復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑧【吉本】女性生殖器の疾病と治療			(予習)テキストの該当箇所を読む (復習)復習	【予習】30分 【復習】30分	
使用テキスト： 疾病と看護③消化器ISBN978-4-8404-6899-2(MCメディカ出版) 疾病と治療⑦運動器ISBN978-4-8404-6903-6(MCメディカ出版) 疾病と看護⑥眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚ISBN978-4-8404-6901-2(MCメディカ出版) 疾病と看護⑨女性生殖器978-4-8404-6905-0(MCメディカ出版)			その他参考文献など： ・疾病と治療(南江堂)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： テキスト以外にも随時プリントなどを配布しますが、授業中に過去の配布物を参照する場合がありますので紛失しないように各自管理すること					

看護学科

科目名： 成人・高齢者疾病治療管理論Ⅱ				担当教員 氏名： 加藤 弘巳、小林 才人、原田 淳、 刀塚 俊起、佐々木 彰一、田中 宏明、 二村 明広		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	後期	専門基礎科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか： 医師の実務経験を活かして、疾病と治療の現状について教授する。						
授業科目の学修教育目標の概要：						キーワード
成人・高齢者の疾病について、主として医学診断の考え方と方法を学ぶ。さらに、内科的治療の立場から各疾患の原因、病態、検査、診断、治療、予後について教授する。主に、脳神経系疾患、呼吸器系疾患、循環器系疾患、血液・造血器疾患、免疫疾患、感染症、消化器疾患、内分泌疾患、代謝・栄養疾患、腎・泌尿器疾患の治療と予後及び管理について学ぶ。						内科系疾患、内科的治療
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力			学んだ知識を繋いで看護に生かすことができるように、疾患の知識を体系的に理解する			
C 論理的思考力			すでに学んだ解剖学・生理学の知識を活用して疾患とその診断、治療、予後及び管理について理解する			
D 問題解決力			主として医学診断の考え方と方法を学ぶことで問題解決力を高める			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 80 %		レポート： 20 %		発表： %	実技試験： %	その他： %
特記事項：主に小テスト、レポートにより評価するが、各担当講師により評価方法が異なる。それぞれの講義時に詳細について説明する。						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：下記参照のこと。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：【加藤】別に定めた日時に試験を行い、採点后返却する【原田】書面でコメントを返却する【刀塚】講評を学生にメールでフィードバックする【佐々木】試験を行い、採点し返却する【波部】レポートで評価し、採点后返却する						
授 業 計 画					準備学修(予習・復習等)	
					学修内容	学修に必要な時間(分)
①【佐々木】 医療の目的は何か。どのようにその目的を果たすか。					事前にすでに学んだ解剖・生理学の知識や観察の技術について復習しておく。	
②【田中】 基本的な病歴聴取の方法						
③【佐々木】 身体診察の方法						
④【佐々木】 呼吸器の働きと呼吸器疾患					講義の内容から試験を行うので配布資料を必ず復習する。	
⑤【刀塚】 感染症・免疫疾患と治療						
⑥【刀塚】 血液疾患と治療						
⑦【田中】 心臓の生理機能					事前に循環器の解剖生理を復習し、事後は配布資料を熟読して知識の整理を行う。	
⑧【田中】 心疾患、特に虚血性心疾患、心不全、不整脈に関する病態生理と治療						
⑨【二村】 腎臓の生理 腎疾患、特に糸球体腎炎と血液透析について： まとめ(テスト)						
⑩【小林】 食道、胃、小腸、大腸、肝、胆、膵疾患について提示する					事前に該当範囲のテキストを熟読し、事後は配布資料を熟読して知識の整理を行う。	
⑪【加藤】 下垂体、甲状腺、副腎、その他の内分泌疾患について提示する						
⑫【加藤】 糖尿病、その他の代謝・栄養疾患について提示する： テスト及び解説						
⑬【原田】 脳・神経系の解剖、機能の総論					事前に脳、神経、感覚器の解剖・整理について復習しておく。教室の模型を見ておく。	
⑭【原田】 内科的治療、看護を行う脳・神経系疾患の各論						
⑮【原田】 外科的治療、看護を行う脳・神経系疾患の各論						
使用テキスト：(MCメディカ出版) 疾病と看護①呼吸器ISBN978-4-8404-6897-8 疾病と看護②循環器ISBN978-4-8404-6898-5 疾病と看護③消化器ISBN978-4-8404-6899-2 疾病と看護④血液/アレルギー・膠原病/感染症ISBN978-4-8404-6900-5 疾病と治療⑤脳・神経ISBN978-4-8404-6901-2 疾病と看護⑧腎/泌尿器/内分泌・代謝ISBN978-4-8404-6904-3					その他参考文献など： 師国家試験問題集、「病気がみえる」メディックメディア	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：この授業で扱う内容は、臨床で数多く遭遇する疾患であるので、しっかり学んでほしい。						

看護学科

科目名: 薬剤治療管理論			担当教員氏名: 甲野 裕之			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門基礎科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
病気の予防、治療、診断に用いられる薬物の作用メカニズム、体内における薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)、薬物の副作用、薬物の安全な投与方法、薬物の管理方法などを学ぶ。					医薬品、薬理作用、薬物動態、薬物有害反応	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力			看護に活用される理論、技術を身につけるために、医薬品について理解する			
B 専門的技術			専門的看護技術を修得するために、疾病に使用される薬について理解する			
C 論理的思考力			疾病に使用される薬を理解し、看護理論や技術を論理的に説明できる能力を養う			
F チームワーク・リーダーシップ			医療チームの一員であることを認識し、看護師の役割を理解する			
G 倫理観			疾病に使用される薬の作用や副作用などを理解し、病める人の心を理解し、医療に携わる者としての倫理観を身につける			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 90 %		レポート: %		発表: %		実技試験: %
						その他: 10 %
特記事項: その他の10%は授業の受講態度、小テストの結果による。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 適宜小テストを行い、テスト問題の解説を行う。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容		学習に必要な時間(分)
①薬理学の概説、薬理学の基礎知識、自律神経系に作用する薬物				【予習】教科書(第1章、第2章、第7章)を読む。 【復習】薬理学基礎知識の復習		【予習】60分 【復習】60分
②中枢神経系に作用する薬物				【予習】教科書(第8章)を読む。 【復習】中枢神経系に作用する薬物の復習		【予習】60分 【復習】60分
③抗がん薬				【予習】教科書(第4章)を読む。 【復習】がん治療に使用する薬物の復習		【予習】60分 【復習】60分
④抗感染症薬				【予習】教科書(第3章)を読む。 【復習】中枢神経系に作用する薬物の復習		【予習】60分 【復習】60分
⑤抗炎症薬、抗アレルギー薬、免疫治療薬				【予習】教科書(第5章、第6章)を読む。 【復習】炎症、免疫疾患に使用する薬物の復習		【予習】60分 【復習】60分
⑥循環器系に作用する薬物				【予習】教科書(第9章)を読む。 【復習】循環器、呼吸器に作用する薬物の復習		【予習】60分 【復習】60分
⑦呼吸器系、消化器系に作用する薬物				【予習】教科書(第10章)を読む。 【復習】呼吸器、消化器系に作用する薬物の復習		【予習】60分 【復習】60分
⑧その他の疾患に使用する薬物				【予習】教科書(第10章、第11章)を読む。 【復習】種々の疾患に使用する薬物の復習		【予習】60分 【復習】60分
使用テキスト: : 系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 3 薬理学 (医学書院)、吉岡充弘著、ISBN978-4-260-04716-6				その他参考文献など: 図書館の薬理学関連図書		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 準備学習(予習・復習等)をしっかりと行ってください。						

看護学科

科目名: 健康と法律			担当教員 氏名: ○山元恵子、炭谷秀信、櫻田惣太郎						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	1年次	後期	専門基礎科目	講義	必修				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護管理者・医療安全管理・社会福祉・公衆衛生行政等の経験を生かして関係法規の講義を行う									
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード				
<ul style="list-style-type: none"> 国民の健康と福祉・看護・医療に関わる関係法規について学ぶ。 看護職として深くかかわっている法律の変遷と構造を理解する。 専門職としての職務責任と役割を理解し、看護実践に活かせる。 					憲法第5条・人権・公衆衛生 福祉・社会保障・医療法 保健師助産師看護師法				
授業における学修の到達目標									
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)									
A 知識・理解力			①健康にかかわる保健、医療、福祉・労働に関する法律の概要を理解する。 ②健康・福祉・衛生行政及び保健所の機能について理解する。						
C 論理的思考力			③保健師助産師看護師法の変遷と看護職の責務を理解する。						
D 問題解決力			④保健師助産師看護師法に基づく看護技術の拡大と将来必要となる資格制度を考察する。						
G 倫理観			⑤看護職として法に基づき公正な判断ができる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	60 %	レポート:	30 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	10 %
特記事項: 評価のその他については、出席状況や授業内の主体的な姿勢を加味し評価する。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 各教員の単元終了後に定めた日時に実施する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: テストや提出レポートに評価の数値化やコメントを記載して返却									
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)					
				学修内容	学修に必要な時間(分)				
①【櫻田】健康にかかわる保健・医療に関する法律の概要				【予習】60分【復習】60分					
②【櫻田】健康にかかわる労働衛生に関する法律の概要				【予習】60分【復習】60分					
③【櫻田】健康にかかわる衛生行政と保健所の役割と概要				【予習】60分【復習】60分					
④【山元】保険医療福祉と法のかかわり方-チーム医療と医療安全-				【予習】60分【復習】60分					
⑤【山元】看護をめぐる法-人と物・場所に関する法律-				【予習】60分【復習】60分					
⑥【山元】看護職として必要な法律の理解と概要-法制度を取り巻く管変え方-				【予習】60分【復習】60分					
⑦【炭谷】看護職として必要な法律の理解と概要(健康保健・国民健康保険法・介護・福祉・障害等の生活支援)				【予習】60分【復習】60分					
⑧【炭谷】看護職として必要な法律の理解と概要(医療・福祉・労働政策・社会基盤整備のための法律等)				【予習】60分【復習】60分					
⑨									
⑩									
⑪									
⑫									
⑬									
⑭									
⑮									
使用テキスト: ・系統看護学講座 看護関係法令健康支援と社会保障制度④ ISBN 978-4-260-05091-3 C3347 ・ナーシング・グラフィカ8 「公衆衛生」 ISBN 978-4-8404-4118-6 C3347				その他参考文献など: 国民衛生の動向					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・看護師を目指すものとして関係法規期の基礎知識と看護業務の関連を学習することは、「患者を守り、自分を守ること」です。									

看護学科

科目名： 看護技術論Ⅱ			担当教員 氏名： ○高橋絹代、米山美智代、泉朱子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次 後期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか： 臨床経験を活かし、看護過程が理解しやすい授業を心がけている					
授業科目の学修教育目標の概要：					キーワード
基礎看護学実習Ⅰを挟んだ構成を行う事で、概要を理解したうえで病院実習を経験し、その経験を基に詳しく看護過程を教授することにより、理解の深度深める					看護過程 アセスメント 看護問題 看護計画立案 実践・評価
授業における学修の到達目標					
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)					
A 知識・理解力		看護過程の枠組みを知り、それぞれの実施方法を理解、実践できる			
C 論理的思考力		意図的に情報収集し、一般知識と患者の状態を元に適切にアセスメントが行える			
D 問題解決力		アセスメントに基づき、看護問題、共同問題を導きだすことができる			
G 倫理観		患者の看護倫理について考えることができる			
H コミュニケーション力		コミュニケーションの基本を振り、患者と良好なコミュニケーションをとることができる			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト：	%	レポート： 40 %	発表： 50 %	実技試験：	% その他： 10 %
特記事項：基礎看護実習Ⅰの前に3回、後に12回実施します。基礎看護実習1での学びを活かし看護過程の学修を行います。これからの実習にとっても大切な内容です。					
アクティブラーニング要素：					
課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：評価は学びの過程及び発表をルーブリックに基づき行う					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：看護過程の各段階で適宜フィードバックを行う。不明な点については適宜指導を実施する。					
授 業 計 画			準備学修(予習・復習等)		
			学修内容	学修に必要な時間(分)	
①【米山】看護過程とは			テキストP272～292	予習 60分 復習 90分	
②【泉】領域別アセスメントの視点			テキストP292～322	予習 60分 復習 90分	
③【高橋】SAOP			テキストP322～327	予習 60分 復習 90分	
④【米山】アセスメント①			テキストP292～305	予習 60分 復習 90分	
⑤【米山】アセスメント②			テキストP292～305	予習 60分 復習 90分	
⑥【米山】看護問題①			テキストP305～314	予習 60分 復習 90分	
⑦【米山】看護問題②			テキストP305～314	予習 60分 復習 90分	
⑧【泉】看護計画立案①			テキストP314～318	予習 60分 復習 90分	
⑨【泉】看護計画立案②			テキストP314～318	予習 60分 復習 90分	
⑩【泉】実施・評価①			テキストP318～321	予習 60分 復習 90分	
⑪【泉】実施・評価②			テキストP318～321	予習 60分 復習 90分	
⑫【高橋】発表準備①			テキストP272～327	予習 60分 復習 90分	
⑬【高橋】発表準備②			テキストP272～327	予習 60分 復習 90分	
⑭【高橋】発表①			テキストP272～327	予習 60分 復習 90分	
⑮【高橋】発表②			テキストP272～327	予習 60分 復習 90分	
使用テキスト：有田清子ら、系統看護学講座；専門分野、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護学。上野栄一、西田直子；看護診断の看護過程ガイド、ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント、中央法規、ISBN978-4-8058-8748-6。リンダJ.カルペニート著、看護診断ハンドブック第11版、医学書院、ISBN978-4-			その他参考文献など：		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：病院実習の実践に必要な知識・考える技術などを学ぶ大切な授業です。わからない所は積極的に質問し、理解を深めてください					

看護学科

科目名： 回復促進援助技術論				担当教員 氏名： ○高橋絹代・泉朱子・稲垣尚江・炭谷英信		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修／選択	備考
2	1年次	後期	専門科目	演習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか： 急性期の看護経験を活かし、基本から臨床応用までの知識を基にイメージできる授業を行う						
授業科目の学修教育目標の概要：					キーワード	
回復促進援助論は、環境、食事、排泄、清潔、呼吸循環、創傷、与薬、感染防止、安全、死後のケア、看護を考えて実践できるように学修を行う。					安全、苦痛の緩和、呼吸循環、与薬、救命救急、見取り、非経口的栄養摂取、生体機能管理	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力	回復促進援助に必要な基礎知識を理解し、守るべき基本を元に、根拠に基づいた援助について考え、実践することができる					
B 専門的技術	安全に関する専門知識を獲得し、回復促進に関わる技術を実践できる					
D 問題解決力	多様な課題を有する患者に対して、アセスメントを行い問題を明らかにし、対処する方法を身に付けることができる					
F チームワーク・リーダーシップ	グループごとに行う演習において、チーム力を以て演習に取り組み、確実な技術を身に付けることができる					
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 60 %	レポート： 40 %	発表： %	実技試験： %	その他： %		
特記事項：						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：学修終了後にテストを行う。技術はそれぞれの授業においてルーブリックを活用し評価を行う						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法： 試験結果、レポートについて基準に基づき個人個人にフィードバックを行う。						
使用テキスト：有田清子：系統別看護学講座：専門分野基礎看護技術Ⅱ、基礎看護学3、医学書院 ISBN978-4-260-04212-3。任和子/井上順子編集：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院ISBN978-4-260-04790-6。嶋森好子、山元恵子監修：写真でわかる看護現場で行う医療安全行動アドバンス、インターメディカISBN978-4-89996-455-1						
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：						
授 業 計 画					準備学修(予習・復習等)	
					学修内容	学修に必要な時間(分)
回数						
1	【高橋】オリエンテーション・感染防止			5-101	テキスト、ナーシングスキルの確認、課題レポート	予習90 復習60
2	【高橋】苦痛の緩和・安楽確保の技術(ポジショニング)			5-101	テキストP152～170、ナーシングスキルの確認、課題レポート	予習90 復習60
3	【稲垣】苦痛の緩和・安楽確保の技術(電法)A			実習室	テキストP152～170、ナーシングスキルの確認、課題レポート	予習90 復習60
4	【稲垣】苦痛の緩和・安楽確保の技術(電法)B			実習室	テキストP152～170、ナーシングスキルの確認、課題レポート	予習90 復習60
5	【高橋】呼吸と循環を整える技術①A/B			5-501	テキストP234～279、ナーシングスキルの確認、課題レポート	予習90 復習60

※前ページよりつづき

看護学科

科目名: 回復促進援助技術論		担当教員 氏名: ○高橋絹代・泉朱子・稲垣尚江・炭谷英信	
授業計画		準備学修(予習・復習等)	
		学修内容	学修に必要な時間(分)
6	【高橋】呼吸・循環を整える技術②A/B	5-101	テキストP234～279、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60
7	【高橋】呼吸と循環を整える技術③A	実習室	テキストP234～279、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60
8	【高橋】呼吸と循環を整える技術③B	実習室	テキストP234～279、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60
9	【高橋】呼吸と循環を整える技術④(体位ドレナージ、スクイーピング、ハッフイング)A	実習室	テキストP234～279、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60
10	【高橋】呼吸と循環を整える技術④(体位ドレナージ、スクイーピング、ハッフイング)B	実習室	テキストP234～279、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60
11	【高橋】呼吸循環を整える技術⑤(吸引)A	実習室	テキストP234～279、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60
12	【高橋】呼吸循環を整える技術⑤(吸引)B	実習室	テキストP234～279、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60
13	【炭谷】非経口的栄養摂取の援助 A	実習室	テキストP51～64、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60
14	【炭谷】非経口的栄養摂取の援助 B	実習室	テキストP51～64、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60
15	【泉】症状・生体機能管理術①(検体検査) A	実習室	テキストP406～435、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60
16	【泉】症状・生体機能管理術①(検体検査) B	実習室	テキストP406～435、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60
17	【泉】症状・生体機能管理術②(生体情報モニタリング) A	実習室	テキストP406～435、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60
18	【泉】症状・生体機能管理術②(生体情報モニタリング) B	実習室	テキストP406～435、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60
19	【泉】創傷管理技術 A	実習室	テキストP280～309、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60
20	【泉】創傷管理技術 B	実習室	テキストP280～309、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60
21	【炭谷】与薬の技術① A	5-101	テキストP310～377、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60
22	【炭谷】与薬の技術① B	5-101	テキストP310～377、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60
23	【炭谷】与薬の技術② A	実習室	テキストP310～377、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60
24	【炭谷】与薬の技術② B	実習室	テキストP310～377、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60
25	【炭谷】与薬の技術③ A	実習室	テキストP310～377、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60
26	【炭谷】与薬の技術③ B	実習室	テキストP310～377、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60
27	【炭谷】与薬の技術④ A	実習室	テキストP310～377、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60
28	【炭谷】与薬の技術④ B	実習室	テキストP310～377、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60
29	【高橋】救命救急処置技術・死の見取りの援助 A	実習室	テキストP378～405.458～474、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60
30	【高橋】救命救急処置技術・死の見取りの援助 B	実習室	テキストP378～405.458～474、ナーシングスキルの確認、課題レポート 予習90 復習60

[目次へ戻る](#)

看護学科				1 年		
科目名: 臨床看護概論				担当教員 氏名: 高田 亮子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	1年次 後期	専門科目	講義	必修		
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:				実務経験から、医学の視点ではなく、看護の視点で看護に必要なケアの見方や考え方について、前期で学んだ知識をもとに、対象の発達段階や疾患からくる症状や生活上の問題発見となる手がかりについて学んでいく		
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
看護は、対象の発達段階や健康レベルや治療による影響から生活が変化する。健康の破綻の時間的問題から、急性期・慢性期・回復期・終末期の特徴が出る。また、症状による対象の反応のメカニズムとアセスメント及びケア、医療現場で身近で代表的な医療機器の原理やと実際を理解し、看護実践の情報を得る機器として活用できるような機器のメカニズムをもとに適切に活用できる基礎とする。				対象理解、発達課題、健康障害、経過別、症状別、治療処置、看護の視点		
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力	看護で活用される理論を理解する					
C 論理的思考力	対象の特徴を情報の収集・分析・アセスメントを通して論理的に考えることができる					
E 自己管理能力	健康上のニーズを理解し、基本的な看護学の知識、技術を統合することができる					
G 倫理観	看護実践を倫理的視点でとらえることができる。					
D 問題解決力	看護の対象の特性とおこなわれている治療・処置からくる原因を推論し、問題解決思考に活かすことができる。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 60 %	レポート: 20 %	発表: 10 %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項:						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業終了後に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 授業の中で適宜解説をする。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容		学習に必要な時間(分)	
①講義概要について 看護とは何か 看護の対象理解:健康障害と生活への影響			【予習】テキスト第一章をまとめる 【復習】授業資料を確認し、学びを整理する。		【予習】60分 【復習】60分	
②看護の視点 経過別、症状別、治療処置別 健康状態 事例で、経過・症状・治療処置を考える 栄養代謝 活動・休息 認知・知覚 コーピング 行動 化学療法			【予習】テキスト第二章から第三章第四章の指定領域をまとめる 【復習】事前学習をもとに事例を比較検討		【予習】60分 【復習】60分	
③事例でのグループワーク			【予習】テキスト第二章から第三章第四章の指定領域をまとめる 【復習】事前学習をもとに事例を比較検討		【予習】60分 【復習】60分	
④事例でのグループワーク			【予習】テキスト第二章から第三章第四章の指定領域をまとめる 【復習】事前学習をもとに事例を比較検討		【予習】60分 【復習】60分	
⑤事例でのグループワーク			【予習】テキスト第二章から第三章第四章の指定領域をまとめる 【復習】事前学習をもとに事例を比較検討		【予習】60分 【復習】60分	
⑥発表 視点 急性の経過、栄養代謝・活動休息・コーピング、化学療法			【予習】テキスト第二章から第三章第四章の指定領域をまとめる 【復習】事前学習をもとに事例を比較検討		【予習】60分 【復習】60分	
⑦発表とまとめ			【予習】テキスト第二章から第三章第四章の指定領域をまとめる 【復習】事前学習をもとに事例を比較検討		【予習】60分 【復習】60分	
⑧医療機器の原理と実際 医療機器の特性 心電図モニター 人工呼吸器 輸液ポンプ 取り扱い方			【予習】テキスト第六章をまとめる 【復習】講義内容のまとめ		【復習】120分	
使用テキスト:臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院 ISBN978-4-260-04700-5			その他参考文献など: 疾病と看護①呼吸器ISBN978-4-8404-6897-8 疾病と看護②循環器ISBN978-4-8404-6898-5 疾病と看護③消化器ISBN978-4-8404-6899-2(MCメディカ出版) 疾病と治療⑤脳・神経ISBN978-4-8404-6901-2 疾病と看護⑧腎/泌尿器/内分泌・代謝ISBN978-4-8404-6904-4			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):看護の視点を、人の発達段階や健康の視点、治療・処置に付随する現象から、必要とされる看護が導き出されることを学んでほしい。						

看護学科

1 年

科目名: 臨床推論				担当教員 氏名: 高田 亮子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次 後期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を看護の臨床経験から、対象の看護診断を導く基礎となる論理的思考の考え方及びその実際の技行っているか: 看護の臨床経験から、対象の看護診断を導く基礎となる論理的思考の考え方及びその実際の技行について教授する。					
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
看護は、健康障害をもつ人の生活上の問題に、対象が自らのもてる力で対応できるよう支援することである。対象のもつ問題を批判的思考と論理的思考を用いて看護診断を推論検証できる思考法を身につけ、状況を全体的に俯瞰しつつ、看護診断を特定していく。看護実践上の思考手段として活用できるための基礎とする。				問題解決技法 論理的思考(ロジカルシンキング) 批判的思考(クリティカルシンキング) 看護診断	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)					
A 知識・理解力	問題解決技術における論理的思考の基礎となる知識を修得できる。対象へのヘルスニーズを判断するために必要な基礎知識を習得でき、看護の対象である人々々の健康問題を対象とともに解決できるクリティカルシンキングにつなげる基礎とする。				
B 専門的技術	論理的思考の技術を習得できる。				
D 問題解決力	科学的・分析的思考過程を理解することができる。				
E 自己管理能力	個人ワークを通して、論理的思考を理解することができる。				
F チームワーク・リーダーシップ	個人ワークをもとに自ら考える力を養い、根拠のある意見がもて、ディベートを通して発言力を養う。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: %	レポート: 30 %	発表: 20 %	演習: 40 %	その他: 10 %	
特記事項: 上記の「その他:10%」については、授業での参加姿勢(出席状況)や取り組み姿勢を評価する。					
アクティブラーニング要素: 課題解決学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 初回の講義の際に伝える。適宜、レポートによる課題を提示する。テーマや提出日は講義内に伝える。 グループワーク、課題学習、演習(実技)を行う。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 提出された課題は確認し不足等の指摘を行なったうえで点数化し、評価に含める。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①【高田】臨床推論とは何か、イメージ			テキスト・ナーシングスキル等の確認 課題プリント	【予習】60分 【復習】60分	
②【高田】推論とは何か、推論の種類			テキスト・ナーシングスキル等の確認 課題プリント	【予習】60分 【復習】60分	
③【高田】タナーの臨床判断モデル概要			テキスト・ナーシングスキル等の確認 課題プリント	【予習】60分 【復習】60分	
④【高田】臨床判断モデルと具体例			テキスト・ナーシングスキル等の確認 課題プリント	【予習】60分 【復習】60分	
⑤【高田】気づきと3つの推論			テキスト・ナーシングスキル等の確認 課題プリント	【予習】60分 【復習】60分	
⑥【高田】事例の臨床推論、内容と構造			テキスト・ナーシングスキル等の確認 課題プリント	【予習】60分 【復習】60分	
⑦【高田】事例展開と統合			テキスト・ナーシングスキル等の確認 課題プリント	【予習】60分 【復習】60分	
⑧【高田】発表会 まとめ			テキスト・ナーシングスキル等の確認 課題プリント	【予習】60分 【復習】60分	
使用テキスト: 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院 ISBN978-4-260-04700-5(臨床看護概論と同様)			その他参考文献など: 1.解剖生理学(メディカ出版) 2.疾患と看護①呼吸器②循環器③消化器④血液/アレルギー・膠原病/感染症⑤脳・神経⑦運動器⑧腎/泌尿器/内分泌・代謝(メディカ出版)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): この授業は、看護の問題解決思考の中核である診断を構成している要素について学びます。思考するプロセスを学ぶ科目です。論理的思考(ロジカルシンキング)を身につけ、さらに批判的思考(クリティカルシンキング)をもとに看護実践能力の基盤となる知識と技術を学びます。					

看護学科

科目名: 精神看護学概論			担当教員 氏名: 坂東紀代美			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業: 精神科病院や総合病院での勤務経験を活かして地域での生活を視座に心の健康、メンタルヘルスケア、精神障がい者への病院内、地域での支援の必要性について教授する。						
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード	
こころからだの健康について学び、心の健康を阻害する要因や維持するために必要な知識を学ぶ。精神看護の歴史を振り返り、現社会に求められている精神看護とは何かについて学び、精神看護のありかたについて考え、実践できる能力を身につける。					精神看護、精神科看護 精神保健福祉法 の健康と障がい 擁護 心 人権	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力	精神科疾患患者に対する社会の理解と対応について、歴史的変化の変遷を知る。精神保健に関する法制度の変遷を理解し、人権尊重の意味を理解する。					
C 論理的思考力	こころの健康に影響する要因について理解し、精神障がい者への対応について述べることができる。					
G 倫理観	精神科疾患を持つ患者に対する社会的な問題を理解し、人間尊重を基盤とした援助の在りかたを考える。					
F チームワーク・リーダーシップ	精神障がい者の地域社会への参加や共存の具体的方法を理解する。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 70 %	レポート: 10 %	発表: 10 %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項: ・授業への参加姿勢や出席状況、その他を総合して評価する。 ・アクティブラーニングの一環としてDVD鑑賞後グループ討議と発表を行う。 ・実習前課題は提出期日を厳守する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 実習記録及び実践について評価し、記録は後日返却する。						
授 業 計 画			準備学修(予習・復習等)			
			学修内容	学修に必要な時間(分)		
①精神障がいについての基本的な考え方、精神保健医療福祉に関する法律を理解する。			【予習】精神障がいの考え方、法制度について熟読する 【復習】精神障がいの考え方を復習する	予習120分 復習120分		
②精神疾患の特徴、心の理解、ライフサイクルと精神保健			【予習】人間の心、人格の発達、メンタルヘルスについて熟読する 【復習】自分のメンタルヘルスについて考察する	予習120分 復習120分		
③精神看護における対人関係:現代社会とこころ			【予習】現代社会とこころについて熟読する 【復習】心の問題についてレポートする	予習120分 復習120分		
④精神科医療の特徴と精神科看護、精神科医療における倫理と人権擁護			【予習】精神医療の歴史と看護、倫理と人権擁護について熟読する 【復習】看護の倫理や人権擁護について自分の考えをまとめる	予習120分 復習120分		
⑤危機とストレスマネジメント、リエゾン精神看護			【予習】ストレスマネジメント、リエゾン、看護師について読む 【復習】看護師のストレスについてレポートする	予習120分 復習120分		
⑥精神障害者の家族の理解と支援について、地域における精神看護			【予習】家族とその支援について、社会資源について読む 【復習】地域で生活する患者と家族への支援をレポートする	予習120分 復習120分		
⑦精神の健康とは何かについてのグループ討議			【予習】精神の健康について熟読し自分の考えをまとめる 【復習】自分とチームメンバーの考えを考察する	予習120分 復習120分		
⑧精神の健康とは何かについてのグループ討議の発表			【予習】グループ発表ができるように資料づくりをしておく 【復習】発表後修正をする	予習120分 復習120分		
※試験は、別日に実施とする						
使用テキスト: 情緒発達と精神看護の基本(ナースンググラフィカ) 978-4-8404-7541-9			その他参考文献など: 国民衛生の動向(厚生労働統計協会) 看護のための精神医学(中井久夫、医学書院)			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 精神的な健康問題は多種多様で拡大傾向です。心の病は現代病とも言えます。本授業でストレスや心の病を理解するとともに、どのような援助が必要なのかを主体的に学んでください。						

看護学科						
科目名: 成人看護学概論				担当教員 氏名: 小倉 之子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護師の実務経験を活かして、看護の場や対象の理解と現状について教授する。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
成人看護の特性や成人期の対象を理解し、成人看護の目的・役割・機能、問題解決の方法について学ぶ					成人、成長発達の特徴、学習の特徴、生活習慣	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 5. 6. 7. 8	
A 知識・理解力	ライフサイクルにおける成人の位置づけを成長・成熟・発達から考慮し、各成人期の特性を理解することができる					
C 論理的思考力	成人の特性や能力に応じた理論と基本的アプローチについて理解することができる					
D 問題解決力	講義内で行われる事例・課題に基づき、問題解決法を見出すことができる					
E 自己管理能力	自らを律して学修に臨む学修準備、体調管理ができる					
F チームワーク・リーダーシップ	グループワークを通じて各自の役割を理解し、チームに参画することができる					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 60 %	レポート: 20 %	発表: 10 %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項:						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 (ディスカッション、ディベート) (グループワーク) (プレゼンテーション) 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 試験は最終講義終了後に別日を設けて実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 授業の中で適宜解説をする。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な時間(分)		
①成人看護学の授業構成(概論、援助論) 成人期にある人の理解			【予習】テキスト第1章熟読 【復習】テキスト配布資料復習	【予習】90分 【復習】90分		
②成長発達の特徴: 成人期の成長発達、成人の役割<グループワーク>			【予習】テキスト第1章熟読 【復習】テキスト配布資料復習	【予習】90分 【復習】90分		
③成長発達の特徴: 青年期、壮年期、向老期の特徴と健康問題<グループワーク>			【予習】テキスト第1,3章熟読 【復習】テキスト配布資料復習	【予習】90分 【復習】90分		
④成長発達の特徴:<グループ発表>			【予習】テキスト第1,3章熟読 【復習】テキスト配布資料復習	【予習】90分 【復習】90分		
⑤成人を取り巻く社会環境と成人の生活 社会の中で生活を営むということ、働くことと生活、家族との関係、多様なライフスタイル			【予習】テキスト第2章熟読 【復習】テキスト配布資料復習	【予習】90分 【復習】90分		
⑥成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策 生活状況の特徴、生と死の動向(感染症、生活習慣病、がんなど)、			【予習】テキスト第3章熟読 【復習】テキスト配布資料復習	【予習】90分 【復習】90分		
⑦成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策 健康増進、健康日本21			【予習】テキスト第3章熟読 【復習】テキスト配布資料復習	【予習】90分 【復習】90分		
⑧健康障害をもつ成人にかかわる際の基本的な視点 ヘルスポモーション、危機状況への適応、行動変容			【予習】テキスト第4章熟読 【復習】テキスト配布資料復習	【予習】90分 【復習】90分		
使用テキスト: 黒江ゆり子編,成人看護学概論・成人保健,メヂカルフレンド社ISBN978-4-8392-3364-6 その他参考文献など:						
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): テキストを活用し、予習復習を必ず行いましょう						

看護学科

科目名： 高齢者看護学概論				担当教員 氏名： 米山 美智代		
単 位	開講時期（年次・期）		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：		看護師の実務経験を活かして、看護の場や対象の理解と現状について教授する。				
授業科目の学修教育目標の概要：						キーワード
高齢者の特徴は個人差が大きいことである。それは、過去の生活環境、体験や罹病の違い、その中で形成された生活習慣や信念による。さらに、現実となってきた「人生の最終ステージにある」という思いはまさに個人のものである。 高齢者の特徴について、加齢による心身の変化及び社会的側面からみた高齢者の立場を理解し看護師としての役割を学ぶ。						要介護高齢者 看護：高齢者ケアシステム 身体拘束・虐待防止法 介護保険
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力	高齢者を看護するための基礎を作るために ①高齢者看護学の基盤となる理論を知る ②高齢者の心身の特徴と生活を理解する					
C 論理的思考力						
C 論理的思考力						
G 倫理観	③高齢者ケアのシステムと看護の役割について考える					
H コミュニケーション力	④ディスカッションを通して高齢者の理解を深める					
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト：60%	レポート：30%	発表：%	実技試験：%	その他：10%		
特記事項：本科目はアクティブ・ラーニングの一環としてグループワークなどにより高齢者の理解を深め、看護師としての役割を学ぶことを狙いとしています。その他10%は取り組み具合を評価します。						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：各単元にレポート及び確認、終了後試験を実施し、評価する。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：レポート・試験は評価後コメントして返却する。						
授 業 計 画					準備学修（予習・復習等）	
					学修内容	学修に必要な時間（分）
① 高齢者看護学の学び方、高齢者の特徴					【予習】シラバスの内容確認、テキスト1第1章、4章該当ページ熟読 【復習】ポイントをノートに整理	180分
② 高齢者のヘルスアセスメント					【予習】テキスト1第4章該当ページ熟読 【復習】ポイントをノートに整理	180分

③ 超高齢社会の現況と統計的輪郭	【予習】テキスト1第2章 該当ページ、テキスト2該 当ページ確認【復習】ポイ ントをノートに整理	180分
④ 高齢社会における保健医療福祉の動向		180分
⑤ 高齢者の権利擁護	【予習】テキスト1第2章該 当ページ熟読 【復習】ポイントをノートに 整理	180分
⑥ エンドオブライフケア	【予習】テキスト1第8章該 当ページ熟読 【復習】ポイントをノートに 整理	180分
⑦ 生活・療養の場における看護	【予習】テキスト1第9章該 当ページ熟読 【復習】ポイントをノートに 整理	180分
⑧ 家族看護	【予習】テキスト1第9章該 当ページ熟読 【復習】ポイントをノートに 整理	180分
⑨ テスト		
<p>使用テキスト：1. 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 北 川公子、ISBN978-4-260-03186-8C3347 2. 国民衛生の動向・厚生指標 増刊、厚生労働統計協会</p> <p>その他参考文献など：①高齢社会白書②厚生労働 統計協会：国民衛生の動向</p>		
<p>受講上の留意点（担当者からのメッセージ）：身近にいる高齢者の生活から学ぶ努力を期待します。</p>		

[目次へ戻る](#)

看護学科

科目名： 小児看護学概論		担当教員 氏名： 山元 恵子			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次 後期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか： 国立小児病院・国立成育医療研究センターの看護管理者・医療安全管理者等の実務経験及び、小児看護技術の教本の監修者として講義を行う					
授業科目の学修教育目標の概要：					キーワード
<ul style="list-style-type: none"> 子どもの基本的な成長・発達について理解する。 日本の少子化問題と政策、今後の子どもに係わる課題について理解する。 専門職として必要な小児看護の基本的な知識と技術を修得する。 					成長と発達 子どもの最善の利益 アドボカシー インフォームドアセント
授業における学修の到達目標					
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		アクティブラーニング			
A 知識・理解力	①小児の健康と発達に係わる保健、医療、福祉、教育に関する国内の動向を理解する。				
C 論理的思考力	③小児を取り巻く環境と課題を理解し、その対策についてを考え、述べることができる。				
D 問題解決力	④小児看護の基本を理解し、グループ学習の中で自己の考えを論理的に説明できる				
G 倫理観	⑤看護職として子どもの最善の利益に基づき公正な判断ができる。				
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： 50 %	レポート： 20 %	発表： 20 %	実技試験： %	その他： 10 %	
特記事項：評価のその他については、出席状況や授業内の主体的な姿勢を加味し評価する。 小児看護学の基本的知識は100点を獲得するまで再テストを繰り返す。					
アクティブラーニング要素： 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：各教員の単元終了後に定めた日時に実施する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：テストや提出レポートに評価の数値化やコメントを記載して返却					
授 業 計 画			準備学修(予習・復習等)		
			学修内容	学修に必要な時間(分)	
①【山元】小児看護学と小児・母性の疾病管理論との連携についてのガイダンス			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】配布資料の確認と復習 グループワークではメンバー全員で課題を仕上げる【成果】すべての発表資料を全員が共有できるように冊子を作成	【予習】60分 【復習】60分	
②【山元】母子手帳から自己の成長・発達の記録から				【予習】60分 【復習】60分	
③【山元】愛着形成のプロセスと家族愛				【予習】60分 【復習】60分	
④【山元】各ステージの成長と発達-グループワーク-				【予習】60分 【復習】60分	
⑤【山元】新生児期・乳児期・幼児期の特徴と成長発達-グループ発表会-				【予習】60分 【復習】60分	
⑥【山元】学童期・思春期・青年期の特徴と成長発達-グループ発表会-				【予習】60分 【復習】60分	
⑦【山元】子どもと家族の最善の利益を考えた支援とアセスメント				【予習】60分 【復習】60分	
⑧【山元】子どもと家族を取り巻く社会環境と課題				【予習】60分 【復習】60分	
⑨【山元】全体のまとめ・試験				【予習】60分 【復習】60分	
⑩					
⑪					
⑫					
⑬					
⑭					
⑮					
使用テキスト： ・系統看護学講座 小児看護概論① 医学書院 ISBN 978-4-260-04087-7 C3347			その他参考文献など： 国民衛生の動向		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： ・小児看護を好きになることよりも、「小児看護を得意科目」にできるように満点を目指し支援します。					

看護学科

1年

科目名: 母性看護学概論				担当教員氏名: 稲垣尚恵、山本朋子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	1年次 後期	専門科目	講義	必修		
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		母性看護の対象は、女性のライフサイクル全般と家族の健全な構築を目的としている。女性の各ライフサイクルの特徴と社会背景について、実際の事例についての話も取り入れつつ、今後の母性看護の在り方について考えられるための資料や機会の提供を行う。				
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
母性看護学は女性のライフサイクルと女性をとりまく環境を理解し、母性看護に必要な能力の習得を目指す。 本講では母性看護学の導入として、母性および母性看護学の概念を理解し、母性看護の基本的な考え方について学習する。 また、母性看護の対象はあらゆる人づくりの基礎をなす広義の母性である。女性の一生にわたる母性機能の発達とその時期に応じた健康問題について看護学とその関連領域の概念枠組みを用いながら理解を深める。 さらに統計から見た母性看護の動向をさぐり課題を考える。				ライフサイクル、女性、家族、セクシュアリティ、生殖		
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力	母性看護の基礎的知識を理解する。					
B 専門的技術	母性看護における対象把握の必要性を理解する。					
D 問題解決力	自身のライフステージを基にライフサイクル各期の女性の健康問題について考える。					
E 自己管理能力	自身の性機能の健康管理について理解する。					
G 倫理観	リプロダクティブヘルス/ライツについて理解する					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 90 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項:						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業の中で課題および科目評価テストについて提示します。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 返却時にコメントを提示します。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容		学習に必要な時間(分)
①母性の基盤となる概念 母性、母性看護				シラバス・テキストの熟読		180分
②母子関係、家族発達				テキスト・関連資料の熟読		180分
③セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ				テキスト・関連資料の熟読		180分
④母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状				テキスト・関連資料の熟読		180分
⑤女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化				テキスト・関連資料の熟読		180分
⑥母性看護に必要な看護技術				テキスト・関連資料の熟読		180分
⑦女性のライフステージ各期における看護				テキスト・関連資料の熟読		180分
⑧リプロダクティブヘルスケア				テキスト・関連資料の熟読		180分
使用テキスト: ①森恵美 系統看護学講座:専門分野 母性看護学概論 母性看護学 [1] ISBN978-4-260-04225-3 ②森恵美 系統看護学講座:専門分野 母性看護学各論 母性看護学 [2] ISBN978-4-260-04223-9 ③母子健康手帳				その他参考文献など: 国民衛生の動向		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 女性、子ども、家族、社会について歴史の視点からの読書をすすめます。 映像資料を用いた授業も行います。事前にテキストを熟読してください。						

看護学科

科目名: 地域・在宅看護援助論			担当教員 氏名: 荒木 晴美						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	1年次	後期	専門科目	演習	必修				
実務経験を以てどのような授業を行っているか:			病院、訪問看護事業所管理者(訪問看護、居宅介護、福祉用具貸与)、介護認定調査員などの実務経験を活かして、地域と在宅で暮らす人々の理解、生活支援のあり方について教授する。						
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード				
地域・在宅看護論は、地域に住むあらゆる健康レベルの人々が、その人らしく住みなれた地域で暮らし続けることを支援することを目的とする。そのためには、地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を理解することが必要である。ここでは、地域と在宅という場の特徴を知り、在宅療養者と家族のQOL向上を目指した健康と生活の支援方法を実施できるための基礎を作る。					地域特性 生活支援 社会資源 地域活性化				
授業における学修の到達目標									
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)									
A 知識・理解力			あらゆる健康レベルの人々が住み慣れた地域で暮らし続けるために ①疾患が生活にどのように影響するか理解する ②地域・在宅で療養する人への生活支援について理解する						
C 論理的思考力			フィールドワーク、グループワーク、討論を行うことをとおして論理的思考力、問題解決力、チームワーク、コミュニケーション力を向上させる。						
D 問題解決力									
F チームワーク・リーダーシップ									
H コミュニケーション力									
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト: 50 %		レポート: 30 %		発表: 10 %		実技試験: %		その他: 10 %	
特記事項: 本科目はアクティブ・ラーニングの一環としてフィールドワーク、グループ討議などを行うことにより地域・在宅で暮らす人々の理解を深め、看護師としての役割を学ぶことを狙いとしています。その他10%は取り組み具合を評価します。									
アクティブラーニング要素: 学生が住む地域について事前学習を行い、									
課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 最終テスト、適宜レポートの提出と発表を課します。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題は後日返却します。									
授 業 計 画					準備学修(予習・復習等)				
					学修内容	学修に必要な時間(分)			
①【荒木】ガイダンス、地域・在宅で暮らす人々					【予習】シラバス確認、テキスト1の2章A、テキスト2の第1章熟読 【復習】授業の振り返り	【予習】60分 【復習】60分			
②【荒木】地域・在宅における時期別の看護					【予習】テキスト1の3章熟読 【復習】授業の振り返り	【予習】60分 【復習】60分			
③【荒木】障害者・福祉用具・住宅改修の理解(サンシップにて体験学習)					【予習】脳梗塞による障害について調べる 【復習】体験を行ったレポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
④【荒木】障がい者疑似体験、福祉用具体験(サンシップにて体験学習)						【予習】60分 【復習】60分			
③④はA・B2グループに分かれて実施予定						【予習】60分 【復習】60分			
⑤【荒木】障がい者疑似体験、福祉用具体験学習のまとめと発表 住まい・生活環境					【予習】①発表準備:前期の地区調査と結び付けて考える ②テキスト2第III章⑤住まい・生活環境熟読 【復習】授業の振り返り	【予習】60分 【復習】60分			
⑥【荒木】地域包括ケア推進に向けて 若年性認知症当事者からの特別講義予定					【予習】若年性認知症について調べてくる 【復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
⑦【荒木】地域における暮らしを支える看護 暮らしの中での危機管理					【予習】テキスト1と2章、テキスト2第II章⑦熟読 【復習】授業の振り返り	【予習】60分 【復習】60分			
⑧【荒木】地域・在宅における安全を守る看護					【予習】テキスト1第2章D 【復習】授業の振り返り	【予習】60分 【復習】60分			
⑨【荒木】まとめとテスト					【復習】全体の振り返り				
使用テキスト: 1. 地域・在宅看護の実践 医学書院 河原加代子 ISBN978-4-260-04714-2C3347 2. 在宅看護技術、メヂカルフレンド社、正野逸子・本田彰子 ISBN978-4-8392-1679-5c3347 (「地域・在宅看護技術論」で使用)					その他参考文献など: 前期「地域・在宅看護学概論」で使用の「地域・在宅看護の基盤」医学書院				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 地域で暮らす人々の生活に目を向けましょう。自身が障害や病気になった時、自宅での生活の中で、現在の生活がどのように変化するかを考えながら学習を進めてください。									

看護学科

科目名: 基礎看護学実習 I				担当教員 氏名: 泉 朱子とりまとめ 他					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	1年次	後期	専門科目	実習	必修				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護は、既習学習を実際の医療現場で応用しながら、個別の対象がもつ問題に対応できる力を学ぶものである。自己学習能力を強化しつつ、自ら創造性のある学びができるよう、教員と指導者からの助言を得ながら学習が進められる方法としている。									
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード				
病院での実習を通して医療施設と医療従事者及び患者の生活の概要を知る。また、生活行動に障害のある入院患者の生活援助の実際を学び、今後の学習へのイメージ形成と動機付け強化をねらいとする。(臨地実習)					・病院の概要 ・医療従事者 ・基礎看護技術 ・生活行動援助技術				
授業における学修の到達目標									
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)									
A 知識・理解力			・実習病院の特徴と地域における役割を述べるができる ・病院に働く人々とその役割について述べるができる ・看護師として必要な知識・技術・態度についてイメージする						
B 専門的技術			・入院患者に提供されている生活援助項目を見学、一部実施できる ・バイタルサイン測定の基本的方法が実践できる						
C 論理的思考力			・患者の入院前の生活と入院後の生活の違いについて述べるができる ・患者の現在の生活における不都合について述べるができる						
F チームワーク・リーダーシップ			・グループメンバーと協力して実習を進めることができる						
H コミュニケーション力			・病院職員や受け持ち患者と良好な人間関係を築くことができる						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験:	%	その他:	%
特記事項: 以下により総合的に評価する。・出席状況 ・実習記録類 ・課題レポート ・実習中の学習態度 * 提出物は期限を厳守すること。* 原則として遅刻、欠席は認めない。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 担当教員が毎日記録や学習状況を確認し、適時学生へ指導する。									
授 業 計 画					準備学修(予習・復習等)				
					学修内容	学修に必要な時間(分)			
1年次 後期 1単位 : 45時間 実習施設: ・厚生連高岡病院 ・高岡ふしき病院 ・射水市民病院 ・済生会富山病院 ・金沢医科大学水見市民病院 ・西能病院 ・真生会富山病院 ・富山西総合病院 ・富山西リハビリテーション病院 * 詳細については実習要項に記載					・指定の事前学習内容について記録用紙に記録する ・生活行動援助技術の修得 【予習】60分 【復習】60分				
使用テキスト:					その他参考文献など:				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 看護は実践の学問といわれます。基礎的知識をもとにした応用力が求められます。実際の現場から、知識を関連させられる力が持てるよう能動的な学習姿勢をもって臨んでください。学習や記録の仕方、患者さんや実習施設職員との関わり方等、知識・技術・態度について考える実習としてください。学習管理力として、まずは自らの体調管理、時間管理ができるコントロール力をつけてのぞみましょう。									